

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興 ～地域の障害者スポーツの拠点として～

千葉県立千葉盲学校

電話 043-422-0231

FAX 043-424-4592



研究のポイント

特別支援学校を地域における障害者スポーツの振興拠点として、特別支援学校の児童生徒にとって、障害者スポーツを身近なものとするとともに、地域との交流を深めることにより、障害者に対する理解を深めるための実践を行う。

■学校の概要 <https://www.chiba-c.ed.jp/chiba-sb/>

本校は、109年の歴史を持つ、視覚障害（見えない、見えにくい）に特化した県内唯一の特別支援学校である。幼稚部、小学部、中学部、高等部、専攻科の5つの学部があり、3歳から60歳代まで74名の幼児児童生徒が学んでいる。県内の26市町に居住地があり、内26名が併設する寄宿舍から通っている。

■研究課題

特別支援学校の児童生徒にとって障害者スポーツをより身近なものとするとともに、スポーツをとおした地域との交流により、障害のある人の社会参加の推進や地域の人々の障害に対する理解を深める。

■研究の目的と方法

【目的】

- (1) 在籍する児童生徒への障害者スポーツの普及・啓発を推進することができる。
- (2) 特別支援学校に在籍する児童生徒と地域の小・中学校等との交流及び共同学習を通して、障害のある人の社会参加の推進や地域の人々の障害に対する理解を深めるなど共生社会の形成を図ることができる。

【方法】

- 「体験」と「情報発信」に焦点をあて、以下の内容を実施していく。
- (1) 視覚障害者が出場できるパラリンピック競技の体験
 - (2) 教職員を対象とした障害者スポーツの研修会
 - (3) 「千葉盲スポーツ通信」の発行・配布
 - (4) パラスポーツ備品の整備と貸出しについての情報提供
 - (5) 障害者スポーツの紹介パンフレットやポスターの作成・配布
 - (6) 本校での障害者スポーツ体験会の実施

■研究概要

1 実践と成果

- (1) 視覚障害者が出場できるパラリンピック競技の体験
 - ・パラトライアスロン体験会をとおして、本校の児童生徒のパラリンピック競技への興味関心の高まりを感じることができた。また、初めて自転車に乗る児童生徒が多く、自転

車の構造や仕組みを知る機会になった。

(2) 教職員を対象とした障害者スポーツの研修会

- ボッチャについて研修会を行い、競技の特性やルール、審判方法等についての理解を深めることができた。研修会をとおして、職員のコミュニケーションをとる機会となった。

(3) 「千葉盲スポーツ通信」の発行・配布

- 提供した情報から実際に大会にエントリーしたり、興味をもった内容を自分で詳しく調べたりするなど、生徒のスポーツに対する興味関心の高まりを感じることができた。

(4) パラスポーツ備品の整備と貸出しについての情報提供

- スポーツ振興事業による地区会議を活用し、本地区に属する6校が所有する備品一覧を集約した貸出リーフレットを作成することができた。地域の施設や小・中学校に配布したり、本校ホームページ上に掲載したりし、様々な機関に情報提供を行うことができた。

(5) 障害者スポーツの紹介パンフレットやポスターの作成・配布

- 5つの競技を取り上げ、1分程度の紹介動画をQRコードにししたり、教材や使い方を載せたり、本地区独自の工夫を取り入れたパンフレットを作成することができた。また、貸出リーフレットとともに、地域の施設や小・中学校に配布したり、本校ホームページ上に掲載したりし、様々な機関に情報提供を行うことができた。

(6) 本校での障害者スポーツ体験会の実施

- 参加者が生徒のデモンストレーションを見たり、ブラインドスポーツを実際に体験したりしたことで、本校の生徒や視覚障害に対する理解を深めてもらうことや障害者スポーツの楽しさを知ってもらうことができた。また、地域の子ども会や四街道でイベントを行う企業の方々と繋がりをもつことができた。

2 今後の展望

(1) 児童生徒への体験による情報提供

- ブラインドスポーツ団体と連携した体験会を実施し、競技及び生涯スポーツの情報を得られるようにする。
- アスリートとして活躍する卒業生を招聘し、競技スポーツの魅力や社会人としてのスポーツとのかかわりについて講演していただき、学校卒業後のスポーツとのかかわり方について考える機会を設ける。

(2) ハンドブック、リーフレットの活用

- 今年度、リーフレットやパンフレットを配布したことにより、貸出が増えると考えられる。本地区の学校と連携し、より多くの貸出希望に応えられるように調整していく。
- パンフレットに掲載した5つの競技に加わる競技紹介の動画や貸出用具の活用方法の資料を作成し、ホームページ上で紹介する。

(3) 小・中学校や地域への講師派遣

- 派遣依頼に応じていけるように、保健体育科の教職員を中心に障害者スポーツの研修会や体験会を定期的に行い、知識を広げていけるようにする。
- ホームページに講師派遣についての情報を掲載したり、用具を貸し出す際に直接話をしたりし、積極的に講師として出向けるようにする。

(4) 地域と共同イベントの実施

- 地域の団体へ学校体育施設を開放し、地域コミュニティの活動の場を提供する。その際、障害者スポーツの用具の貸出や紹介を行い、啓発も行う。
- 地域の企業や団体が企画するイベントにおける障害者スポーツ体験では、場所や用具の提供、講師として参加し、より多くの人へ障害者スポーツの普及・啓発を目指す。

【講評】

千葉盲学校の実践について

昨年度から、特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業の拠点校として、特別支援学校の幼児児童生徒が地域の方々と一緒に障害者スポーツを行う交流をとおして、社会参加や障害に対する理解を互いに深め、共生社会の発展に寄与する研究に取り組んでいただきました。

パラトライアスロンのタンDEM自転車体験では、自転車に馴染みのない視覚障害の子どもたちが、自分でペダルをこぎ、風を切って進むことができることを知り、興味関心の幅を更に広げていく実践であったと思います。地区会議をとおして作成された障害者用具の貸出しリーフレットや障害者スポーツの紹介パンフレットは、動画視聴もできるように工夫されており、大変分かりやすく、配付した地域での活用が大いに期待されるものとなっております。

今後も、子どもたちが地域で生涯に渡って障害者スポーツを楽しむことができる環境を整え、地域への障害者理解を深める実践的な取組を継続していただきたいと思います。